

第10章

共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(19)～退院後の暴力の予測

目的

共通評価項目は医療観察法医療において継続的な評価として用いられる全国共通の尺度であり、信頼性と妥当性の検証を行うことが求められている。

先の章(共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(17)～退院後の問題行動の予測)では共通評価項目の17の中項目、61の小項目、および17項目の合計点が通院移行後の自傷・自殺企図を除いた問題行動をどの程度予測できるのか、COX 比例ハザードモデルによる解析を行い、評定値が高いと比較的早期に問題行動に至りやすい項目を抽出した。その際には<自傷・自殺企図><放火><性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力><医療への不遵守><AI・物質関連問題>の7種の問題行動のうち、<自傷・自殺企図>を除いたいずれかの問題行動の発生を予測の対象とした。

本研究では、各項目の予測妥当性の検証をさらに進めるため、退院後の暴力についての解析を行う。

方法

a.対象

本研究の対象は2008年4月1日～2012年3月31日の期間に入院決定を受けた対象者であり、2013年10月1日までに退院し、通院処遇となった対象者である。研究協力が得られ、データが収集できた22の指定入院医療機関からの373名分のデータを用いた。

入院中のデータの抽出は診療支援システムの統計データ出力(CSV出力)プログラムを用い、退院後の追跡調査は指定通院医療機関に調査票を送付して協力を求めた。

本研究では上記のサンプルのうち、追跡調

査期間中に問題行動までの日数や処遇終了までの日数が欠損値であるデータ、退院申請時点の共通評価項目が欠損値であるデータサンプルサイズで除外し、解析に用いたサンプル数はN=343となった。通院処遇中の問題行動は<自傷・自殺企図><放火><性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力><医療への不遵守><AI・物質関連問題>の7種について調査し、それぞれ初回の問題行動が発生した日までの退院からの歴日を調査した。7種の問題行動のあった対象者の人数は、それぞれ<自傷・自殺企図>=12名、<放火>=1名、<性的な暴力>=6名、<身体的な暴力>=19名、<非身体的な暴力>=41名、<医療への不遵守>=48名、<AI・物質関連問題>=13名であった。本研究では上記の問題行動のうち、暴力を中心に取り上げる。暴力は医療観察法の対象としている重大な他害行為であり、この医療が防止しようと狙っている中心の対象である。医療観察法医療で主眼としている治療目的が十分果たせているかを検証するには、通院処遇移行後の医療観察法6罪種を調べることが最も適切と思われるが、前述の3年間のエントリー期間でデータ収集した343例のうち、医療観察法再入院に至った事例は6例に過ぎない(再他害行為のない、再入院申し立て事例を含む)。この指定通院医療機関に協力を要請して転帰を調査するという方法の限界のため、通院処遇期間を超えて追跡することは困難であり、また予測対象となる事例が6例に留まれば尺度の評価という本研究の目的は達せられない。よって、本研究では対象とする暴力に軽微なものも含め、対象を広げて予測妥当性の評価を行う。先の章(共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(17)～退院後の問題行動の予測)

では<医療への不遵守>も含めて広く問題行動を対象としたが、ここでは暴力に限定し、<性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力>を対象とする。なお、<放火>は医療観察法の対象の罪種に含まれているが、欧米のリスクアセスメント研究では放火は暴力リスクの予測の中には含まない。本研究の対象とすべきかどうかは議論の分かれるところであるが、本研究で収集したサンプルでは、追跡期間中に放火に及んだ対象者は1名であり、かつその対象者は放火を起こす以前に他の暴力を起こしていたため、本研究では放火の予測は対象としない。N=343の全サンプルのうち、同一の対象者で複数の問題行動を生じた対象者もあり、<性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力>のいずれかを起こした対象者は46名で、この3種のいずれかを起こすまでの期間(複数の暴力を起こしている対象者の場合は退院から最も早く起こした暴力までの期間)をCOX 比例ハザードモデルおよび生存分析の対象とした。残りの297名を追跡打ち切り事例として、通院処遇終了までの期間ないしデータ収集日までの期間を追跡期間として解析の対象とした。

b.解析方法

共通評価項目の各項目が通院移行後の問題行動の予測をどの程度できるか評価するため、項目ごとにCox 比例ハザードモデルによる解析を行った。本来Cox 比例ハザードモデルは多変量解析で、予測モデルを作るために複数の独立変数を同時に解析するが、本研究では予測モデルを作るのではなく、共通評価項目各項目の性質を評価することが目的である為、1項目ずつCox 比例ハザードモデルによる解析を行った。Cox 比例ハザードモデルではlog - log プロットによって比例ハザード性を確認することが必要であるが、17項目合計点の解析以外は共通評価項目の1項目ずつ

Cox 比例ハザードモデルによる解析を行ったため、独立変数が0・1・2の3点しか幅がないことの影響で、多くの項目でlog - log プロットを描けずに比例ハザード性を確認できなかったことがあった。比例ハザード性を確認することができなかった場合には、各項目の評価値ごとの生存率曲線を描き、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel 流)および一般化Wilcoxon 検定(Peto-Prentice 流)によって生存率曲線の群間比較を行った。生存率曲線の比較を行う場合は、Cox 比例ハザードモデルによる解析は、生存率曲線の差が生じている可能性の高い項目を抽出するための予備的な解析という位置づけになるため、Cox 比例ハザードモデルによる解析で5%水準で有意となった項目に加え、10%水準の有意傾向に留まった項目に関しても、生存率曲線の群間比較を行った。

解析にはエクセル統計2010を使用した。

c.倫理的な配慮

各指定入院医療機関の研究協力者から入院対象者の情報を収集する際には、住所・氏名ならびに会社名・学校名・地名等個人の特定につながるような個人情報削除し、データの受け渡しにはデータの暗号化を行った。退院後の追跡調査は対象者の入院していた指定入院医療機関から通院先の指定通院医療機関に行き、各指定通院医療機関においてデータを連結させた後に研究代表者に送付した。よってデータ集約前の各指定入院医療機関の研究協力者の時点には連結可能となるが、研究代表者にデータが集約された時点では連結不可能匿名化となる。発表には統計的な値のみを発表し、一事例の詳細な情報を発表することはしない。以上の配慮をもって、研究代表者の所属施設である肥前精神医療センターの承認を得て本研究を実施した。

結果

以下、解析結果を中項目の各項目および合計点、次いで各中項目に含まれる小項目の順に挙げる。以下では「暴力」を<性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力>の3種を含むものとして扱う。

1)17 中項目の各項目による通院処遇移行後の暴力の予測

共通評価項目 17 中項目のそれぞれおよび 17 項目の合計点の COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 1 にまとめた。表 1 から【衝動コントロール】【非社会性】【治療効果】の3項目及び 17 項目の合計点は COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。【内省・洞察】および【ストレス】は 10%水準の有意傾向に留まった。

【衝動コントロール】【非社会性】は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかった。図 1~図 4 に【治療効果】および 17 項目の合計点の生存率曲線と log - log プロットを示し、図 5~図 8 に【内省・洞察】【ストレス】の生存率曲線と log - log プロットを示した。

【治療効果】および 17 項目の合計点は log - log プロットから比例ハザード性が確認され、表 1 のハザード比【治療効果】: 2.486、17 項目の合計点: 1.079 のハザード比¹で通院移行後の暴力の危険性を高めることが示され

¹ 17 項目合計点のハザード比は他の項目のハザード比に比べて値が小さいが、ハザード比は点数が 1 点増すごとの発生率の増加である為、各項目は 0 点 - 2 点のレンジであるため、【治療効果】のハザード比 2.486 では【治療効果】2 点の際には $2.486^2=6.181$ 倍の危険性になる一方、17 項目合計点は 0 点 - 34 点に分布可能で、本研究のサンプルでは 1 点 - 30 点に分布しているため、17 項目合計点 = 30 点の対象者では 17 項目合計点 = 1 点の対象者に比べて $1.079^{29} = 9.121$ 倍の危険性になる。それ故、17 項目合計点のハザード比 = 1.079 は他と比べて小さい値ではない。

た。

退院申請時の【衝動コントロール】は評定値が 0 点 = 198 名、1 点 = 119 名、2 点 = 26 名であった。図 9 に、【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定 (0 点、1 点、2 点の 3 群) を表 2、また表 3~表 5 に【衝動コントロール】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 2 および表 3~表 5 から、【衝動コントロール】の評定が 0 点の群 < 1 点の群 < 2 点の群の順に通院移行後の暴力の危険性が高まることが示された。

退院申請時の【非社会性】は評定値が 0 点 = 295 名、1 点 = 33 名、2 点 = 15 名と 2 点の評定となった対象者が少なかったため、生存率曲線の比較においては 0 点の群と 1 点ないし 2 点の群の 2 群に分けた。【非社会性】の生存率曲線を図 10 に、ログランク検定 (Cochran-Mantel-Haenszel 流) および一般化 Wilcoxon 検定 (Peto-Prentice 流) の結果を表 6 に示した。表 6 より、【非社会性】0 点の群と【非社会性】1 点以上の群とは生存率曲線に差が認められた。

退院申請時の【内省・洞察】は評定値が 0 点 = 80 名、1 点 = 202 名、2 点 = 61 名であった。図 6 【内省・洞察】の log - log プロットから【内省・洞察】の比例ハザード性は必ずしもないとは言えないが、評定値ごとの群間比較も行った。図 11 に、【内省・洞察】生存率曲線の差の検定 (0 点、1 点、2 点の 3 群) を表 7、また表 8~表 10 に【内省・洞察】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 7 および表 8~表 10 から、【内省・洞察】の評定が 1 点の群と 2 点の群とは生存率曲線に差が認められた。しかし表 7 の 3 つの生存率曲線の差の比較で有意差が出ていないことから、【内省・洞察】の評定は通院移行後の暴力の危険性を予測するとは言い難い。

退院申請時の【ストレス】は評定値が 0 点 = 29 名、1 点 = 251 名、2 点 = 63 名であった。

図8【ストレス】の log - log プロットから【ストレス】の比例ハザード性は否定され、COX 比例ハザードモデルによる検証は妥当ではない。それ故【ストレス】の評定値ごとの群間比較を行った。図12に、【ストレス】生存率曲線の差の検定(0点、1点、2点の3群)を表11、また表12~表14に【ストレス】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表11および表12~表14から、【ストレス】の評定が1点の群と2点の群とには生存曲線に差が認められた。

2)【精神病症状】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【精神病症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表15にまとめた。表15のように COX 比例ハザードモデルによる検定で【3)概念の統合障害】のみ10%水準の有意傾向になった。退院申請時の【3)概念の統合障害】は評定値が0点=259名、1点=71名、2点=13名と2点の評定となった対象者が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【3)概念の統合障害】の生存率曲線を図13に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel 流)および一般化 Wilcoxon 検定(Peto-Prentice 流)の結果を表16に示した。表16より【3)概念の統合障害】の評定値との生存率曲線には差が認められなかった。

3)【非精神病性症状】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【非精神病性症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表17にまとめた。表17から【1)興奮・躁状態】【2)不安・緊張】【3)怒り】【7)解離】および【8)知的障害】の5項目は COX 比例ハザードモデルによる検定が5%水準で

有意になった。このうち、【2)不安・緊張】を除く4項目は群1または群2に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかった。図14~図15に【2)不安・緊張】の生存率曲線と log - log プロットを示した。図15から【2)不安・緊張】の解析での比例ハザード性が確認され、表17のハザード比【2)不安・緊張】:1.839のハザード比で通院移行後の暴力の危険性を高めることが示された。

【1)興奮・躁状態】【3)怒り】【7)解離】および【8)知的障害】の4項目は比例ハザード性の検証ができなかったため、生存率曲線の差の検定を行った。

退院申請時の【1)興奮・躁状態】は評定値が0点=301名、1点=35名、2点=7名と2点の評定となった対象者が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【1)興奮・躁状態】の生存率曲線を図16に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel 流)および一般化 Wilcoxon 検定(Peto-Prentice 流)の結果を表18に示した。表18より、【1)興奮・躁状態】0点の群と【1)興奮・躁状態】1点以上の群とには生存曲線に1%水準で有意な差が認められた。

退院申請時の【3)怒り】は評定値が0点=291名、1点=41名、2点=11名と大半が0点であったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。【3)怒り】の生存率曲線を図17に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel 流)および一般化 Wilcoxon 検定(Peto-Prentice 流)の結果を表19に示した。表19より、【3)怒り】0点の群と【3)怒り】1点以上の群とには生存曲線に1%水準で有意な差が認められた。

【7)解離】は評定値が0点=336名、1点=7名、2点=0名と0点以外の発生件数が

10 件以下であり群間比較にも耐えられないため、ログランク検定および一般化 Wilcoxon 検定は行わなかった。

退院申請時の【8）知的障害】は評定値が 0 点=198 名、1 点=77 名、2 点=68 名であった。図 18 に、【8）知的障害】生存率曲線の差の検定(0 点、1 点、2 点の 3 群)を表 20、また表 21~表 23 に【8）知的障害】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 20 および表 21~表 23 から、【8）知的障害】の評定が 0 点の群は 1 点の群および 2 点の群の生存率曲線との間に差が認められた。1 点の群と 2 点の群との間には生存率曲線の差は認められなかった。

4)【内省・洞察】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【内省・洞察】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 24 にまとめた。表 24 のように、【2）対象行為以外の他害行為への内省】と【4）対象行為の要因理解】が COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。【3）病識】は 10%水準の有意傾向に留まった。【2）対象行為以外の他害行為への内省】は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかった。図 19~図 20 に【4）対象行為の要因理解】の生存率曲線と log - log プロットを示し、図 21~図 22 に【3）病識】の生存率曲線と log - log プロットを示した。図 20 から【4）対象行為の要因理解】の解析での比例ハザード性が確認され、表 24 のハザード比【4）対象行為の要因理解】: 1.564 のハザード比で通院移行後の暴力の危険性を高めることが示された。

【3）病識】は図 22 から比例ハザード性が確認され、10%水準の有意傾向が支持された。

【3）病識】は評定値が 0 点=160 名、1 点=155 名、2 点=28 名であり、生存率曲線の差

の検定も行ったが、図 23、表 25 に示した生存率曲線の差の検定結果のように、3 群比較においても 10%水準の有意傾向に留まった。

【2）対象行為以外の他害行為への内省】は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができなかったため、0 点、1 点、2 点の 3 群で生存率曲線の比較を行った。各評定値の人数は 0 点=205 名、1 点=107 名、2 点=31 名である。【2）対象行為以外の他害行為への内省】の生存率曲線を図 24 に、【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定(0 点、1 点、2 点の 3 群)を表 26、また表 27~表 29 に【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表 26 および表 27~表 29 から【2）対象行為以外の他害行為への内省】の 0 点、1 点、2 点の 3 群の生存率曲線の差が認められ、0 点の群と 2 点の群との差が 5%水準で認められたが、1 点の群と 2 点の群との差は認められず、0 点の群と 1 点の群は 10%水準の有意傾向に留まった。

5)【生活能力】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【生活能力】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 30 にまとめた。表 30 のように、【3）金銭管理】と【4）家事や料理】【12）過度の依存】が COX 比例ハザードモデルによる検定が 5%水準で有意になった。【11）生産的活動・役割】は 10%水準で有意傾向となった。上記 4 項目は群 1 または群 2 に有効なデータがないため log-log プロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかったため、生存率曲線の比較を行った。

退院申請時の退院申請時の【3）金銭管理】は評定値が 0 点=242 名、1 点=83 名、2 点=18 名であった。【3）金銭管理】の各評定値 3 群の生存率曲線を図 25 に、【3）金銭管理】

生存率曲線の差の検定(0点、1点、2点の3群)を表31、また表32~表34に【3)金銭管理】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表31および表32~表34から【3)金銭管理】の評定が0点の群<1点の群<2点の群の順に通院移行後の暴力の危険性が高まることが示された。

退院申請時の【4)家事や料理】は評定値が0点=225名、1点=105名、2点=13名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図26に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表35に示した。表35より、【4)家事や料理】0点の群と【4)家事や料理】1点以上の群とには生存曲線に1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【12)過度の依存】は評定値が0点=291名、1点=42名、2点=10名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図27に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表36に示した。表36より、【12)過度の依存】0点の群と【12)過度の依存】1点以上の群とに0.1%水準で有意な差が認められた。

退院申請時の【5)安全管理】は評定値が0点=291名、1点=41名、2点=12名と大半が0点であったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図28に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表37に示した。表37より、【5)安全管理】0点の群と【5)安全管理】1点以

上の群との生存曲線には差は認められなかった。

退院申請時の退院申請時の【11)生産的活動・役割】は評定値が0点=181名、1点=105名、2点=57名であった。【11)生産的活動・役割】の各評定値3群の生存率曲線を図29に挙げ、退院申請時の0点、1点、2点の3群での生存率曲線の差の検定(0点、1点、2点の3群)を表38、また表39~表41に【11)生産的活動・役割】生存率曲線の各群の差の検定を示した。表38および表39~表41から【11)生産的活動・役割】の0点、1点、2点の3群の生存率曲線の差が認められ、0点の群と1点の群との差が1%水準で認められたが、1点の群と2点の群、0点の群と2点の群との差は認められなかった。

5)【衝動コントロール】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【衝動コントロール】の小項目それぞれのCOX比例ハザードモデルによる解析結果を表42にまとめた。表42のように【衝動コントロール】の5つ全ての小項目がCOX比例ハザードモデルによる検定が5%水準で有意になった。しかし上記5項目は群1または群2に有効なデータがないためlog-logプロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかったため、生存率曲線の比較を行った。

退院申請時の【1)一貫性のない行動】は評定値が0点=284名、1点=50名、2点=9名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図30に、ログランク検定(Cochran-Mantel-Haenszel流)および一般化Wilcoxon検定(Peto-Prentice流)の結果を表43に示した。表43より、【1)一貫性のない行動】0点の群と【1)一貫性のない行動】1点以上の群

とには生存曲線に 0.1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【2）待つことができない】は評定値が0点=290名、1点=43名、2点=10名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図31に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice流）の結果を表44に示した。表44より、【2）待つことができない】0点の群と【2）待つことができない】1点以上の群とには生存曲線に1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【3）先の予測をしない】は評定値が0点=236名、1点=83名、2点=24名であり、3群の生存率曲線を比較した。3群の生存率曲線を図32に、【3）先の予測をしない】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）を表45に、生存率曲線の各群の差の検定を表46～表48に示した。表45から【3）先の予測をしない】の0点、1点、2点の3群の生存率曲線には0.1%水準で有意な差が認められ、表46～表48より0点の群と1点の群および2点の群との間には1%水準で有意差が認められたが、1点の群と2点の群との間には差が認められなかった。

退院申請時の【4）そそのかされる】は評定値が0点=308名、1点=30名、2点=5名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図33に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice流）の結果を表48に示した。表49より、【4）そそのかされる】0点の群と【4）そそのかされる】1点以上の群とには生存曲線に1%水準の有意差が認められた。

退院申請時の【5）怒りの感情の行動化】

は評定値が0点=299名、1点=29名、2点=15名と2点の群が少なかったため、生存曲線の比較においては0点の群と1点ないし2点の群の2群に分けた。2群の生存曲線を図34に、ログランク検定（Cochran-Mantel-Haenszel流）および一般化 Wilcoxon 検定（Peto-Prentice流）の結果を表50に示した。表50より、【5）怒りの感情の行動化】0点の群と【5）怒りの感情の行動化】1点以上の群とには生存曲線に5%水準の有意差が認められた。

6)【非社会性】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【非社会性】の小項目それぞれのCOX比例ハザードモデルによる解析結果を表51にまとめた。表51中、【3）犯罪志向的態度】は計算が収束できなかったが、退院申請時の【3）犯罪志向的態度】は評定値が0点=338名、1点=4名、2点=1名で、1点ないし2点となった5名はいずれも通院移行後に暴力に及んでいなかった。

表51のように、【5）他者を脅す】【6）だます、嘘を言う】【9）性的逸脱行動】の3項目がCOX比例ハザードモデルによる検定が5%水準で有意になった。3項目は群1または群2に有効なデータがないためlog-logプロットを描くことができず、比例ハザード性の確認ができなかった。

またこれらの小項目は出現率が非常に低く、【5）他者を脅す】は評定値が0点=335名、1点=5名、2点=3名、【6）だます、嘘を言う】は評定値が0点=332名、1点=9名、2点=2名、【9）性的逸脱行動】は評定値が0点=336名、1点=6名、2点=1名とそれぞれ0点以外の発生件数が少なく、群間比較にも耐えられないため、生存率曲線の比較は行わなかった。

7)【現実的計画】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【現実的計画】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 52 にまとめた。表 52 のように、単一の項目で通院処遇移行後の暴力を 5 %水準で有意に予測する【現実的計画】の小項目は認められなかった。

8)【治療・ケアの継続性】の各小項目による通院処遇移行後の暴力の予測

【治療・ケアの継続性】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルによる解析結果を表 53 にまとめた。表 53 のように、単一の項目で通院処遇移行後の暴力を 5 %水準で有意に予測する【治療・ケアの継続性】の小項目は認められなかった。

考察

本研究の結果、共通評価項目の 17 項目の合計点は通院処遇移行後の暴力を予測し、中項目では【衝動コントロール】【非社会性】【治療効果】【ストレス】の評定値が高いと比較的

早期に何らかの暴力に至りやすいことが示された。小項目では【非精神病性症状】の小項目【1)興奮・躁状態】【2)不安・緊張】【3)怒り】【8)知的障害】、【内省・洞察】の小項目【4)対象行為の要因理解】【2)対象行為以外の他害行為への内省】、【生活能力】の小項目【3)金銭管理】【4)家事や料理】、【11)生産的活動・役割】、【12)過度の依存】、【衝動コントロール】の全ての小項目が高いと比較的早期に何らかの暴力に至りやすいことが示された。【非社会性】の小項目はいくつか COX 比例ハザード比が高い項目もあったが、いずれも 1 点以上の発生件数が少ないために群間比較はできなかった。

本研究の結果から共通評価項目の複数の下位項目ならびに 17 項目の合計点が通院移行後の暴力を予測することが明らかになった。今後は、入院中の問題行動の予測について解析し、各項目の性質を詳細に描くことを通じ、今後の尺度改訂につなげていきたい。

表1 中項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量²

共変量	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
精神病症状	0.254	0.205	1.526	1	0.217	1.289	0.862	1.927
非精神病性症状	0.307	0.214	2.067	1	0.151	1.360	0.894	2.068
自殺企図	-0.653	0.868	0.566	1	0.452	0.520	0.095	2.851
内省・洞察	0.385	0.228	2.844	1	0.092	1.469	0.940	2.297
生活能力	0.345	0.234	2.171	1	0.141	1.413	0.892	2.237
衝動コントロール	1.017	0.209	23.756	1	0.000	2.765	1.837	4.161
共感性	0.342	0.281	1.481	1	0.224	1.408	0.811	2.444
非社会性	0.520	0.237	4.831	1	0.028	1.682	1.058	2.674
対人暴力	0.327	0.332	0.967	1	0.325	1.386	0.723	2.658
個人的支援	0.319	0.229	1.935	1	0.164	1.376	0.878	2.157
コミュニティ要因	-0.048	0.225	0.046	1	0.830	0.953	0.613	1.480
ストレス	0.517	0.290	3.173	1	0.075	1.677	0.949	2.963
物質乱用	0.116	0.232	0.249	1	0.618	1.123	0.712	1.771
現実的計画	-0.157	0.209	0.568	1	0.451	0.854	0.567	1.287
コンプライアンス	0.366	0.251	2.135	1	0.144	1.443	0.882	2.358
治療効果	0.911	0.348	6.866	1	0.009	2.486	1.258	4.914
治療・ケアの継続性	0.005	0.204	0.001	1	0.980	1.005	0.673	1.500
17項目合計	0.076	0.029	6.999	1	0.008	1.079	1.020	1.142

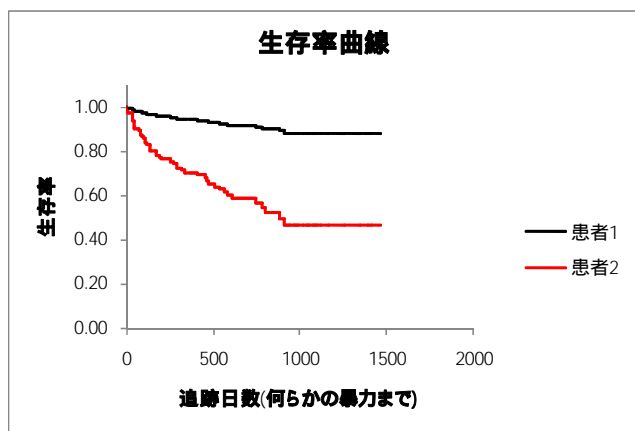


図1 【治療効果】の生存率曲線

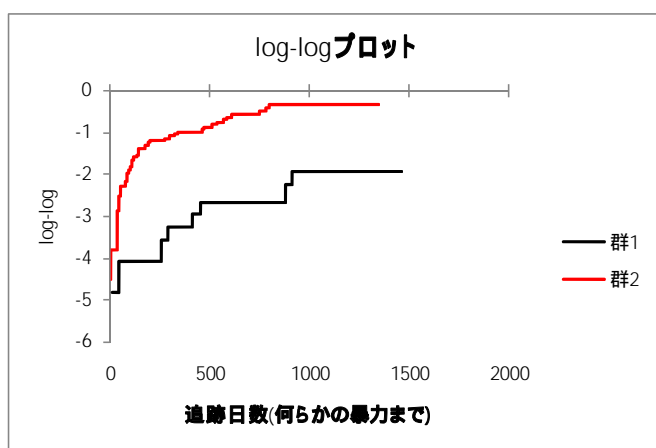


図2 【治療効果】の log - log プロット

² 本表の値は、17項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

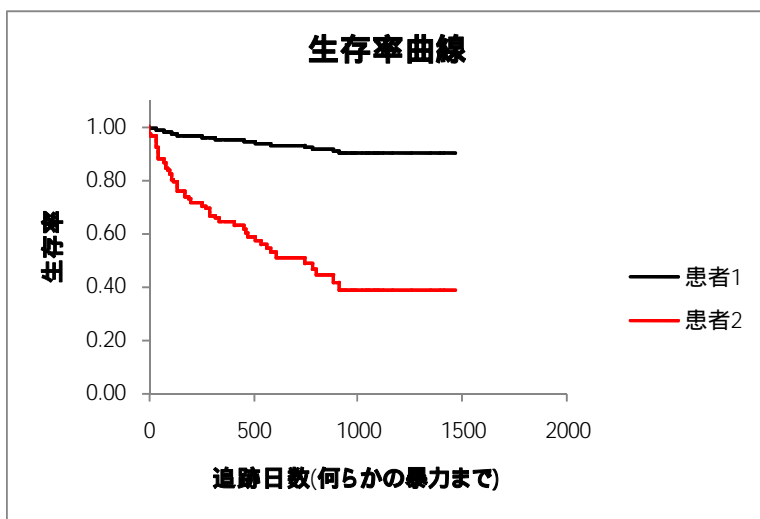


図3 【17項目合計点】の生存率曲線

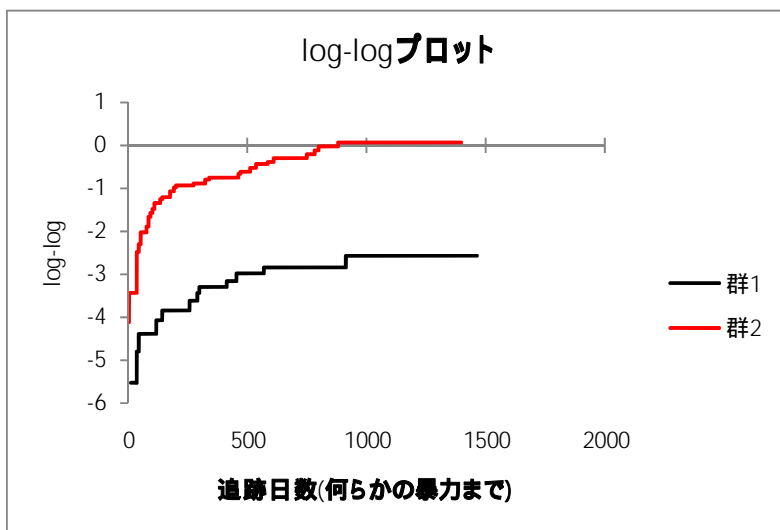


図4 【17項目合計点】のlog - log プロット

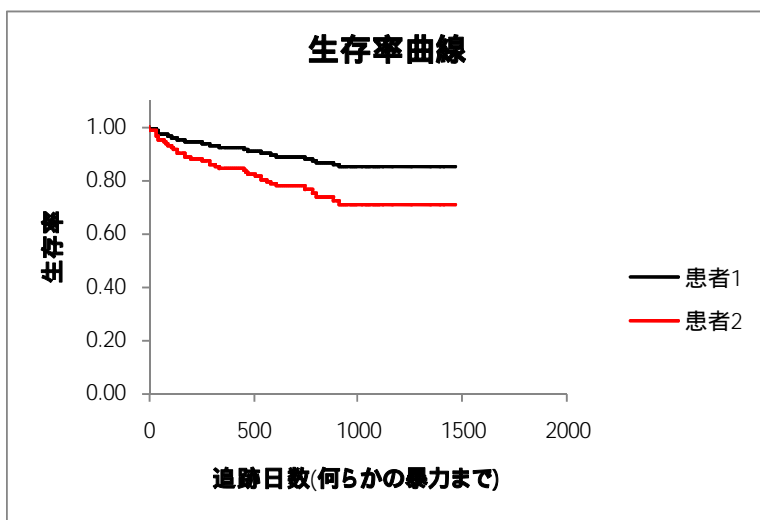


図5 【内省・洞察】の生存率曲線

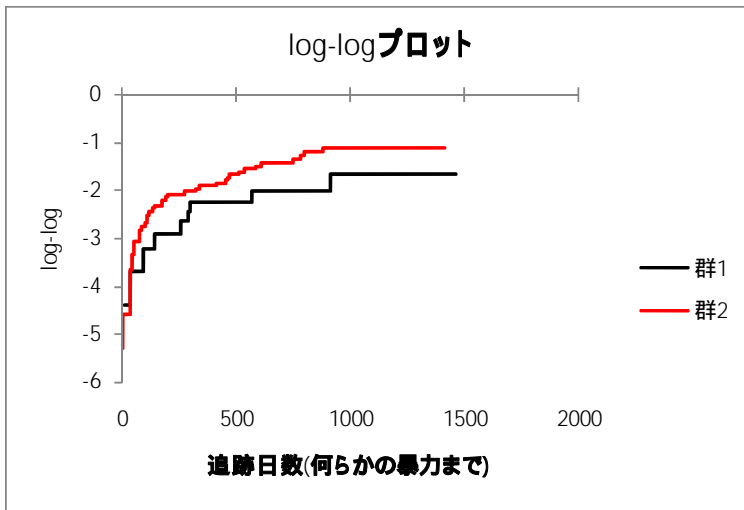


図6 【内省・洞察】の log - log プロット

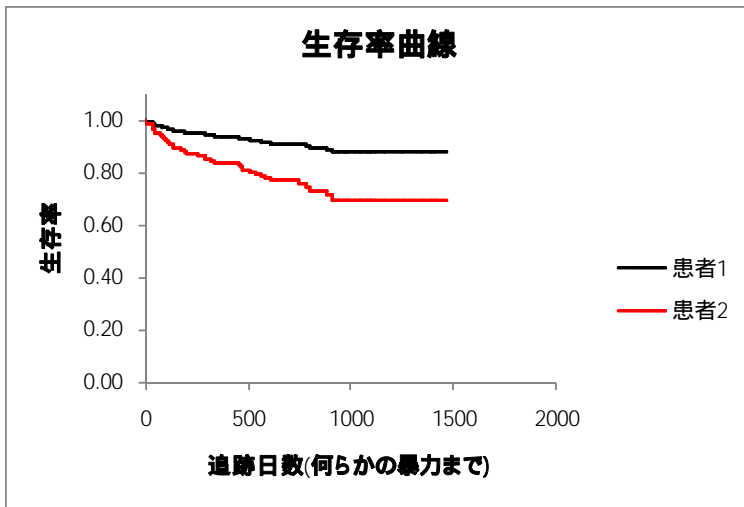


図7 【ストレス】の生存率曲線

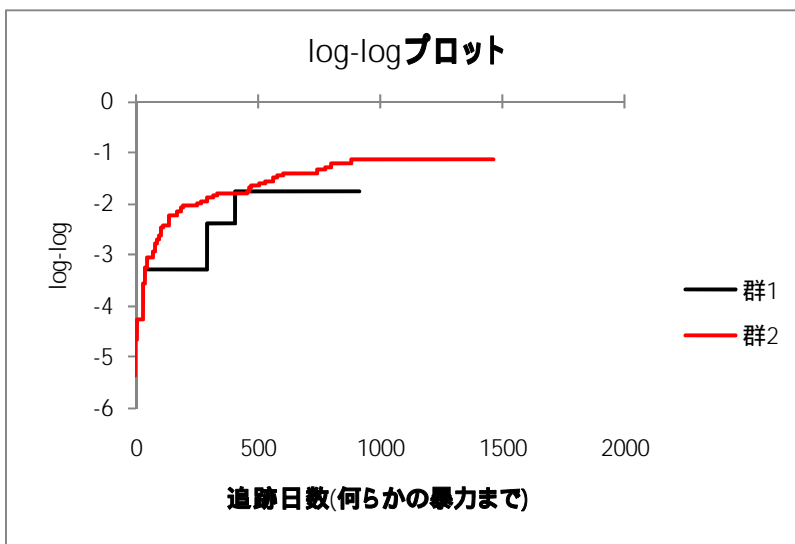


図8 【ストレス】の log - log プロット

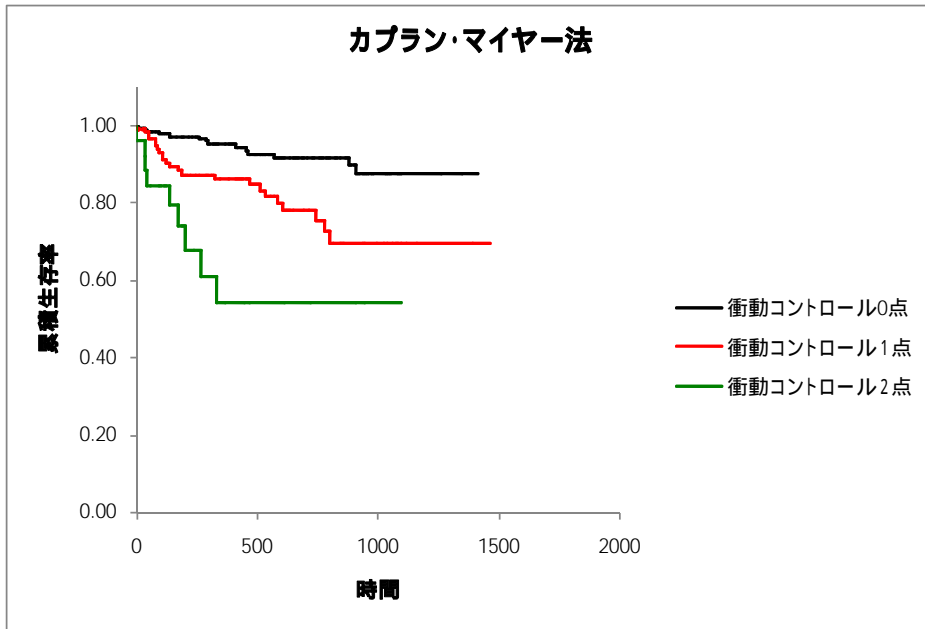


図9 【衝動コントロール】の生存率曲線

表2 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定(0点と1点、2点の3群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	28.356	2	0.000
一般化Wilcoxon検定	29.104	2	0.000

表3 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定(0点、1点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	11.224	1	0.001
一般化Wilcoxon検定	11.240	1	0.001

表4 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定(1点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	5.862	1	0.015
一般化Wilcoxon検定	6.258	1	0.012

表5 【衝動コントロール】生存率曲線の差の検定(0点、2点の2群)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	30.122	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	31.012	1	0.000

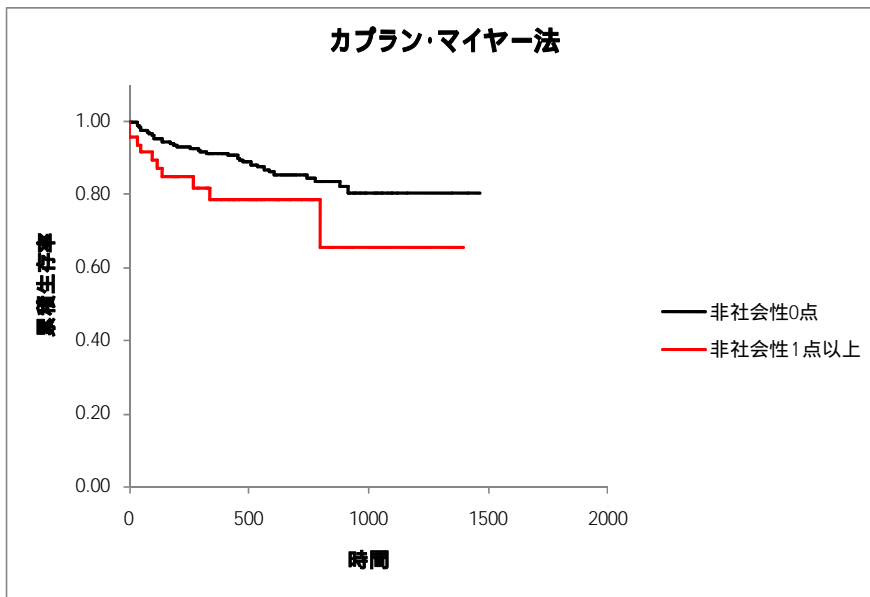


図 10 【非社会性】の生存率曲線

表 6 【非社会性】生存率曲線の差の検定（0点と1点以上の2群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	4.184	1	0.041
一般化Wilcoxon検定	4.458	1	0.035

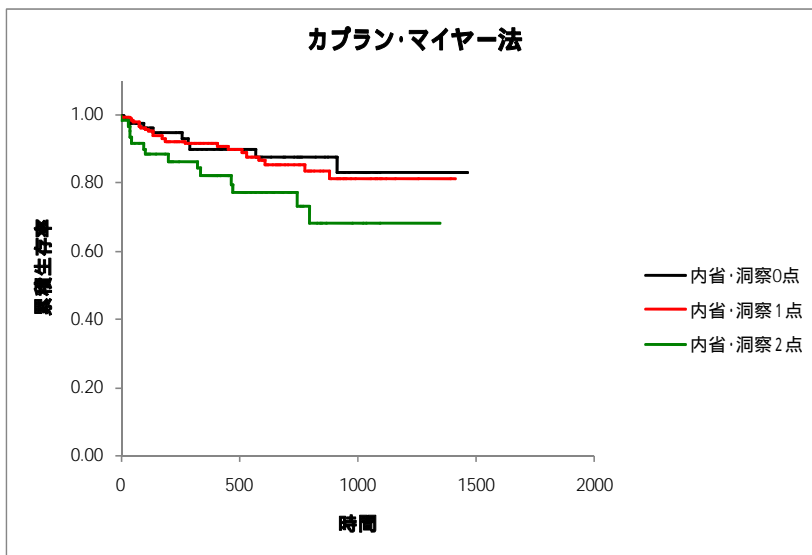


図 11 【内省・洞察】の生存率曲線

表 7 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

ログランク検定	5.094	2	0.078
一般化Wilcoxon検定	5.245	2	0.073

表 8 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.070	1	0.792
一般化Wilcoxon検定	0.067	1	0.795

表 9 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	3.990	1	0.046
一般化Wilcoxon検定	4.167	1	0.041

表 10 【内省・洞察】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	3.481	1	0.062
一般化Wilcoxon検定	3.494	1	0.062

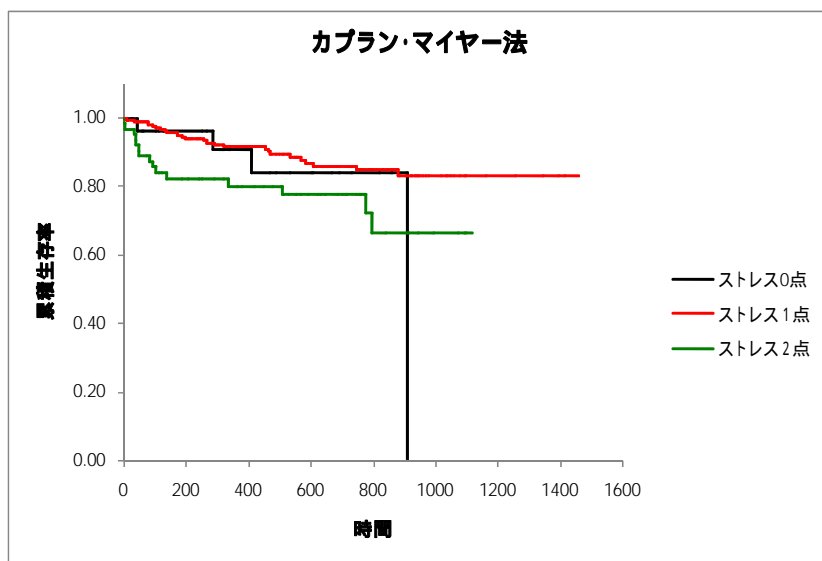


図 12 【ストレス】の生存率曲線

表 11 【ストレス】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.179	2	0.028
一般化Wilcoxon検定	7.681	2	0.021

表 12 【ストレス】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.836	1	0.361
一般化Wilcoxon検定	0.702	1	0.402

表 13 【ストレス】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.070	1	0.008
一般化Wilcoxon検定	7.615	1	0.006

表 14 【ストレス】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.413	1	0.520
一般化Wilcoxon検定	0.669	1	0.413

表 15 【精神病症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量³

精神病症状の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 通常でない思考	0.119	0.198	0.363	1	0.547	1.127	0.764	1.661
2) 幻覚に基づいた行動	0.146	0.225	0.423	1	0.516	1.157	0.745	1.798
3) 概念の統合障害	0.439	0.229	3.658	1	0.056	1.551	0.989	2.432
4) 精神病的しぐさ	-0.120	0.440	0.074	1	0.785	0.887	0.374	2.103
5) 不適切な疑惑	0.113	0.215	0.278	1	0.598	1.120	0.735	1.705
6) 誇大性	0.428	0.322	1.768	1	0.184	1.534	0.816	2.885

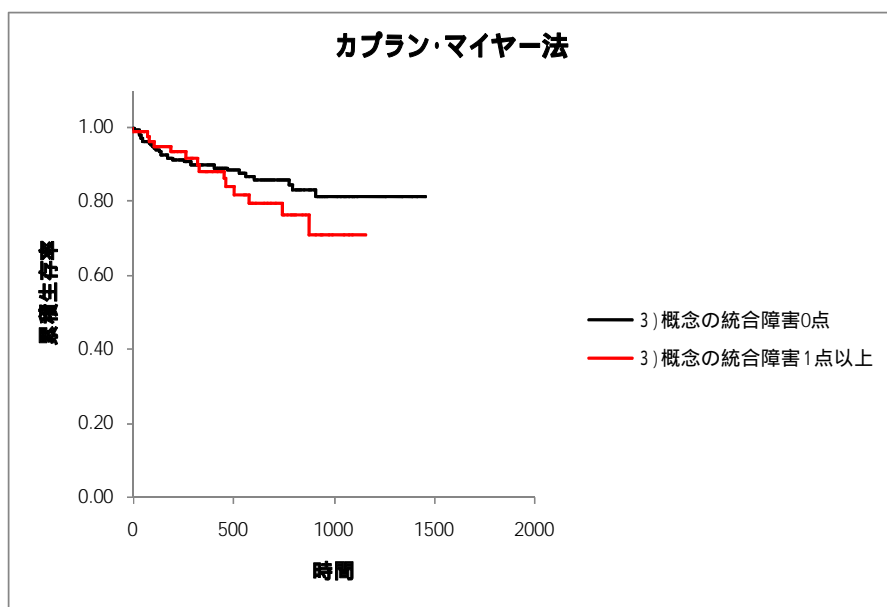


図 13 【3）概念の統合障害】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 16 【3）概念の統合障害】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.973	1	0.324
一般化Wilcoxon検定	0.794	1	0.373

³ 本表の値は、6項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

表 17 【非精神性病症状】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁴

非精神病症状の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 興奮・躁状態	0.858	0.255	11.296	1	0.001	2.359	1.430	3.892
2) 不安・緊張	0.609	0.235	6.734	1	0.009	1.839	1.161	2.915
3) 怒り	0.859	0.225	14.600	1	0.000	2.362	1.520	3.671
4) 感情の平板化	0.116	0.311	0.139	1	0.710	1.123	0.611	2.063
5) 抑うつ	0.047	0.403	0.014	1	0.907	1.048	0.476	2.310
6) 罪悪感	0.594	0.402	2.189	1	0.139	1.811	0.825	3.979
7) 解離	1.542	0.524	8.666	1	0.003	4.676	1.674	13.057
8) 知的障害	0.401	0.170	5.566	1	0.018	1.493	1.070	2.082
9) 意識障害	1.652	1.016	2.641	1	0.104	5.216	0.711	38.237

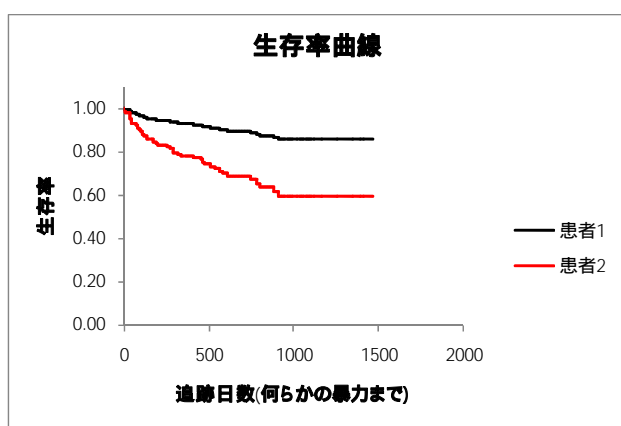


図 14 【2) 不安・緊張】の生存率曲線

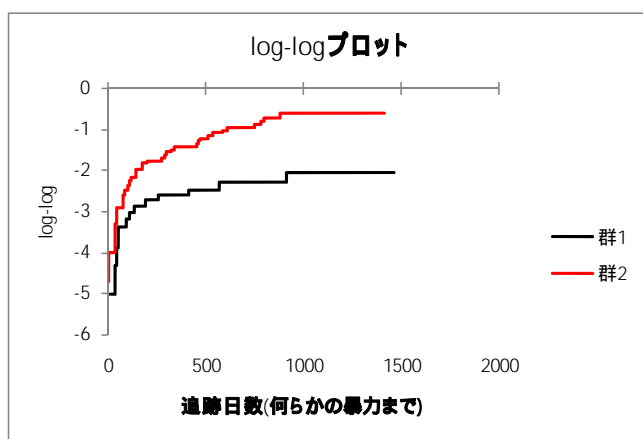


図 15 【2) 不安・緊張】の log - log プロット

⁴ 本表の値は、9 項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1 項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを 1 つの表にまとめたものである。

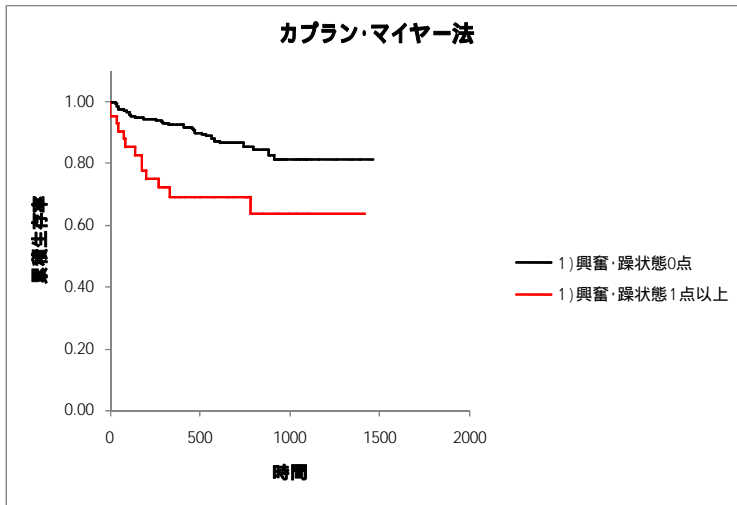


図 16 【 1 ）興奮・躁状態】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 18 【 1 ）興奮・躁状態】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	11.463	1	0.001
一般化Wilcoxon検定	12.429	1	0.000

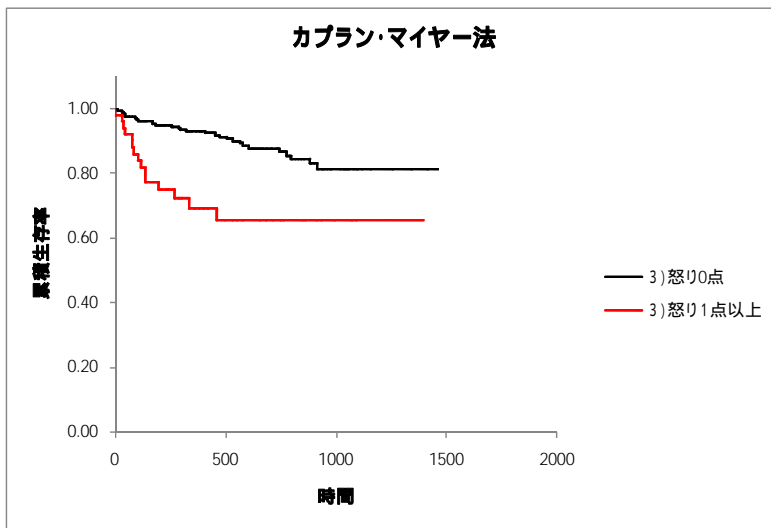


図 17 【 3 ）怒り】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 19 【 3 ）怒り】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	17.160	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	18.244	1	0.000

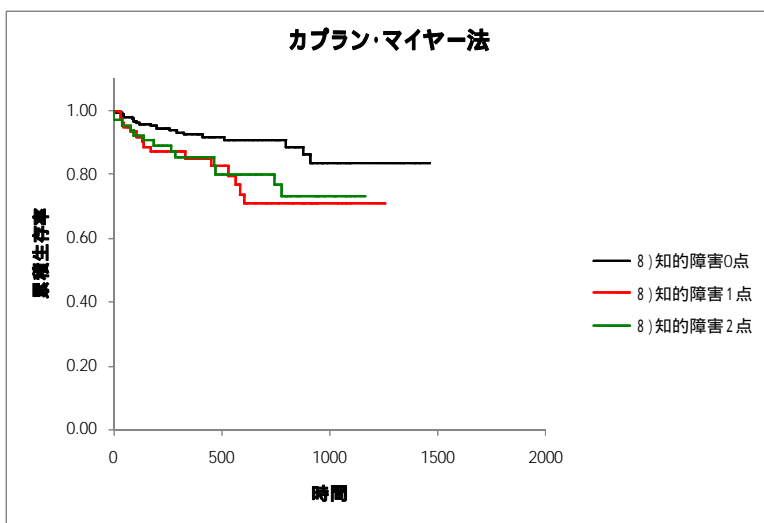


図 18 【 8 ）知的障害】の生存率曲線

表 20 【 8 ）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.615	2	0.022
一般化Wilcoxon検定	7.746	2	0.021

表 21 【 8 ）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.164	1	0.013
一般化Wilcoxon検定	6.240	1	0.012

表 22 【 8 ）知的障害】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.075	1	0.784
一般化Wilcoxon検定	0.069	1	0.793

表 23 【 8 ）知的障害】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	4.441	1	0.035
一般化Wilcoxon検定	4.603	1	0.032

表 24 【内省・洞察】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁵

内省・洞察の小項目	Wald検定				ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間		
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度		P 値	下限	上限
1) 対象行為への内省	0.292	0.231	1.588	1	0.208	1.339	0.850	2.107
2) 対象行為以外の他害行為への内省	0.539	0.203	7.085	1	0.008	1.715	1.153	2.551
3) 病識	0.403	0.218	3.406	1	0.065	1.496	0.975	2.295
4) 対象行為の要因理解	0.447	0.208	4.640	1	0.031	1.564	1.041	2.349

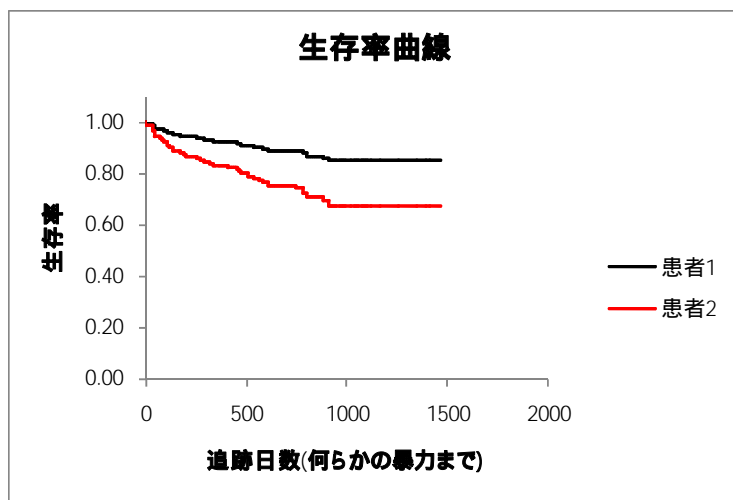


図 19 【4) 対象行為の要因理解】の生存率曲線

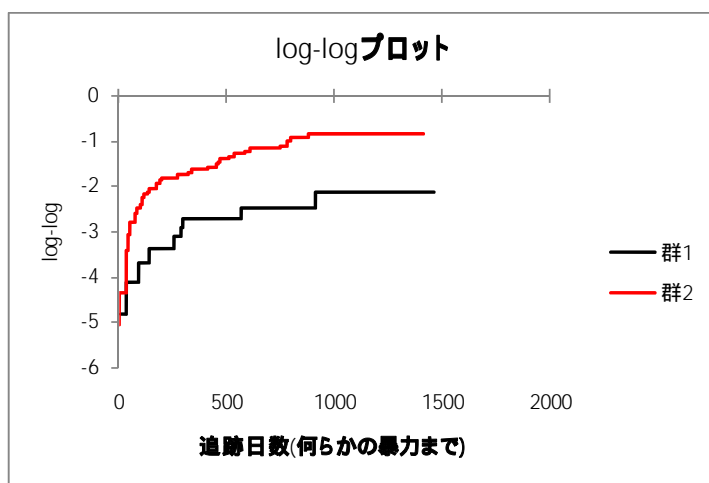


図 20 【4) 対象行為の要因理解】の log - log プロット

⁵ 本表の値は、4 項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1 項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを 1 つの表にまとめたものである。

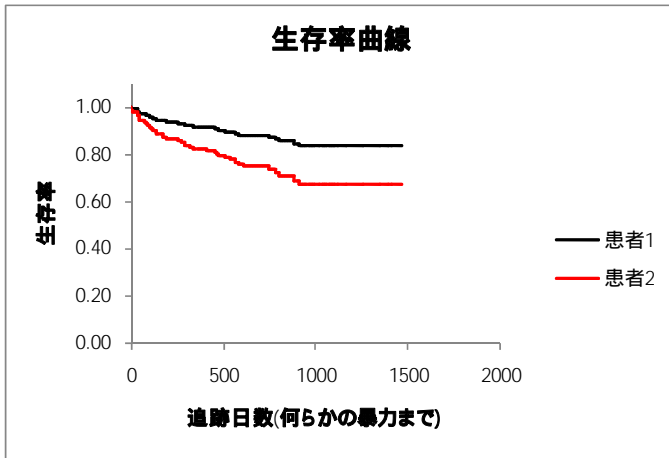


図 21 【 3) 病識】の生存率曲線

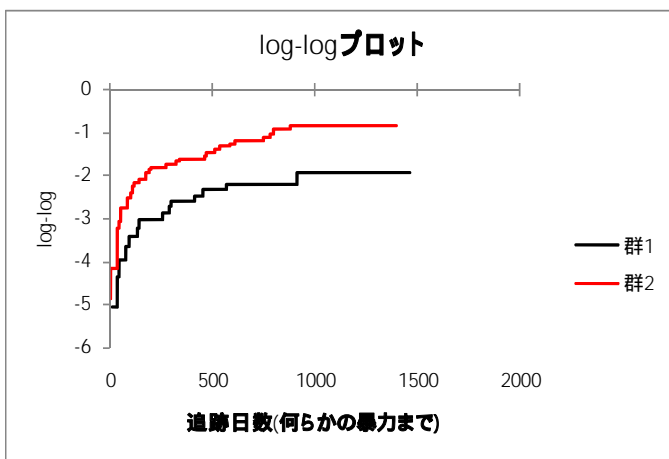


図 22 【 3) 病識】の log - log プロット

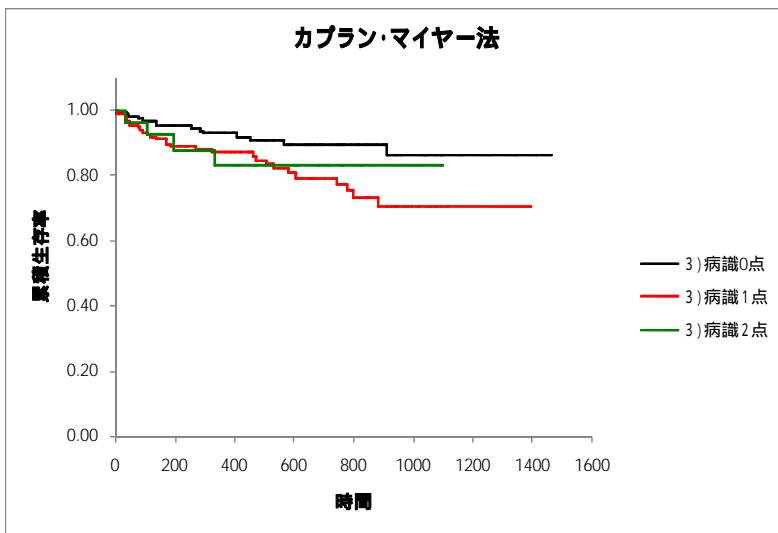


図 23 【 3) 病識】の生存率曲線 (0 点、 1 点、 2 点の 3 群)

表 25 【3）病識】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	5.919	2	0.052
一般化Wilcoxon検定	5.784	2	0.055

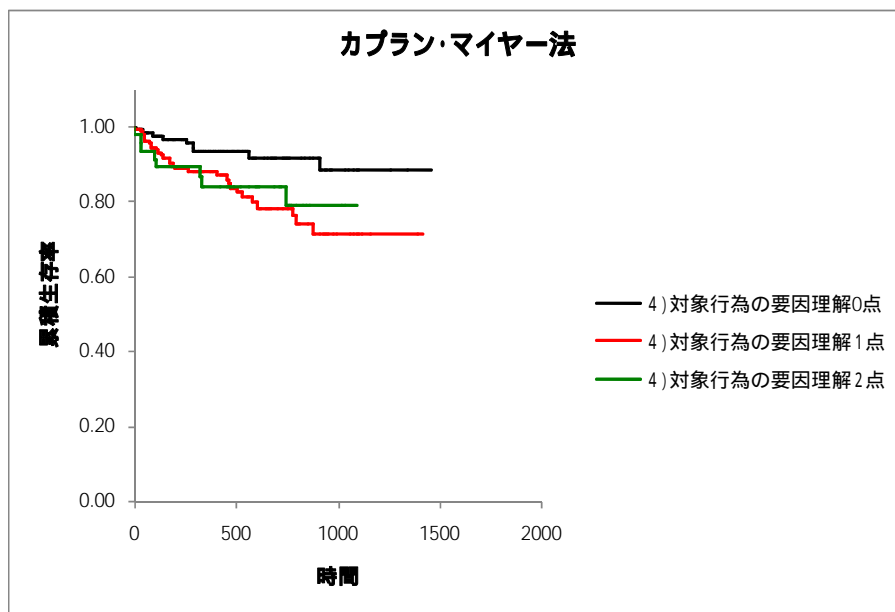


図 24 【2）対象行為以外の他害行為への内省】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 26 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.375	2	0.025
一般化Wilcoxon検定	7.553	2	0.023

表 27 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	3.518	1	0.061
一般化Wilcoxon検定	3.634	1	0.057

表 28 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.898	1	0.343
一般化Wilcoxon検定	0.861	1	0.353

表 29 【2）対象行為以外の他害行為への内省】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.581	1	0.010
一般化Wilcoxon検定	6.792	1	0.009

表 30 【生活能力】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁶

生活能力の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 生活リズム	0.308	0.284	1.178	1	0.278	1.361	0.780	2.374
2) 整容と衛生	0.406	0.299	1.850	1	0.174	1.501	0.836	2.695
3) 金銭管理	0.868	0.208	17.475	1	0.000	2.383	1.586	3.580
4) 家事や料理	0.634	0.231	7.530	1	0.006	1.886	1.199	2.966
5) 安全管理	0.416	0.256	2.653	1	0.103	1.517	0.919	2.503
6) 社会資源の利用	0.211	0.266	0.631	1	0.427	1.235	0.734	2.079
7) コミュニケーション	0.351	0.237	2.193	1	0.139	1.420	0.893	2.258
8) 社会的引きこもり	0.194	0.309	0.394	1	0.530	1.214	0.663	2.225
9) 孤立	-0.006	0.269	0.000	1	0.982	0.994	0.587	1.684
10) 活動性の低さ	0.275	0.286	0.928	1	0.335	1.317	0.752	2.305
11) 生産的活動・役割	0.327	0.184	3.157	1	0.076	1.387	0.967	1.991
12) 過度の依存	0.776	0.226	11.741	1	0.001	2.173	1.394	3.386
13) 余暇を有効に過ごせない	0.374	0.295	1.604	1	0.205	1.453	0.815	2.590
14) 施設への過剰適応	-0.826	0.952	0.752	1	0.386	0.438	0.068	2.831

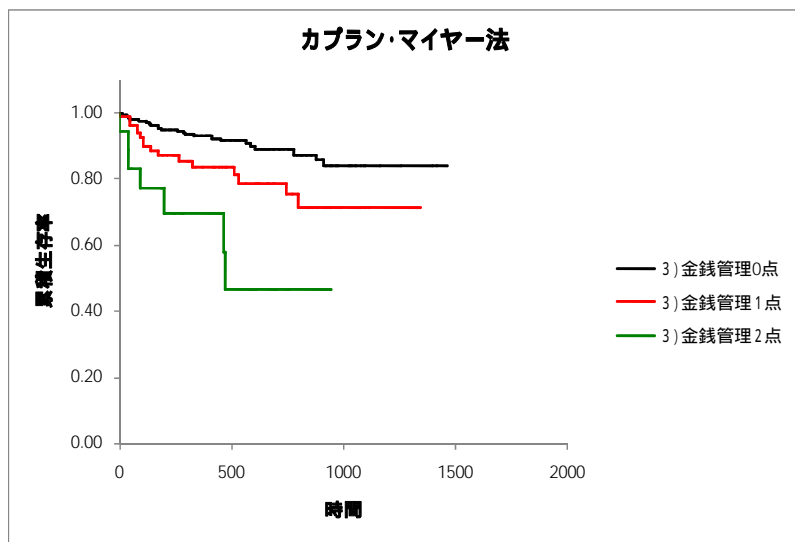


図 25 【3）金銭管理】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 31 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	22.104	2	0.000
一般化Wilcoxon検定	22.470	2	0.000

⁶ 本表の値は、14項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

表 32 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.139	1	0.013
一般化Wilcoxon検定	6.333	1	0.012

表 33 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	5.049	1	0.025
一般化Wilcoxon検定	5.217	1	0.022

表 34 【3）金銭管理】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	21.930	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	22.120	1	0.000

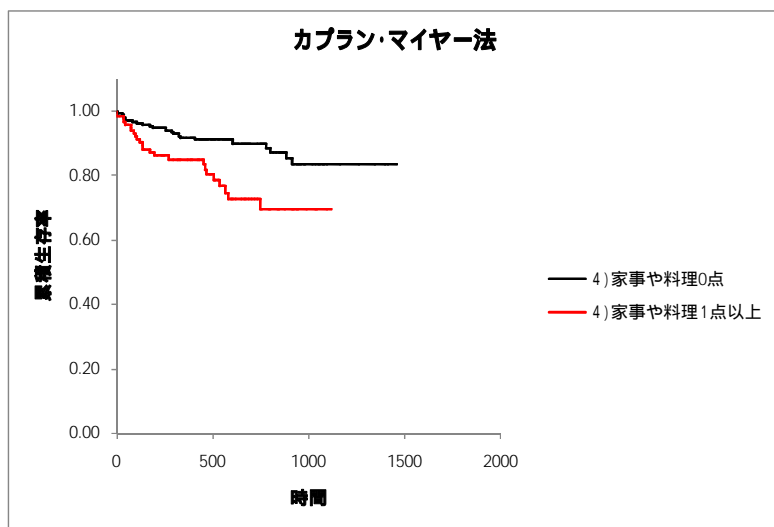


図 26 【4）家事や料理】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 35 【4）家事や料理】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	9.264	1	0.002
一般化Wilcoxon検定	9.292	1	0.002

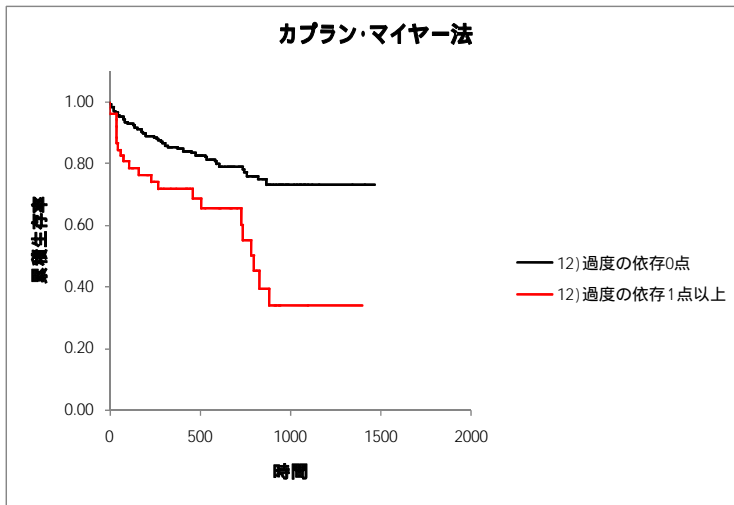


図 27 【12）過度の依存】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 36 【12）過度の依存】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	13.261	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	13.274	1	0.000

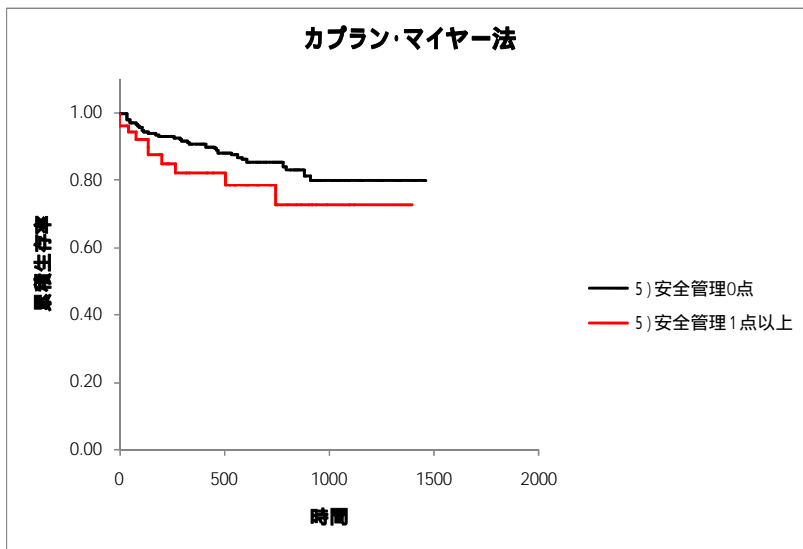


図 28 【5）安全管理】の生存率曲線（0点、1点以上の2群比較）

表 37 【5）安全管理】生存率曲線の差の検定（0点、1点以上の2群比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	2.199	1	0.138
一般化Wilcoxon検定	2.379	1	0.123

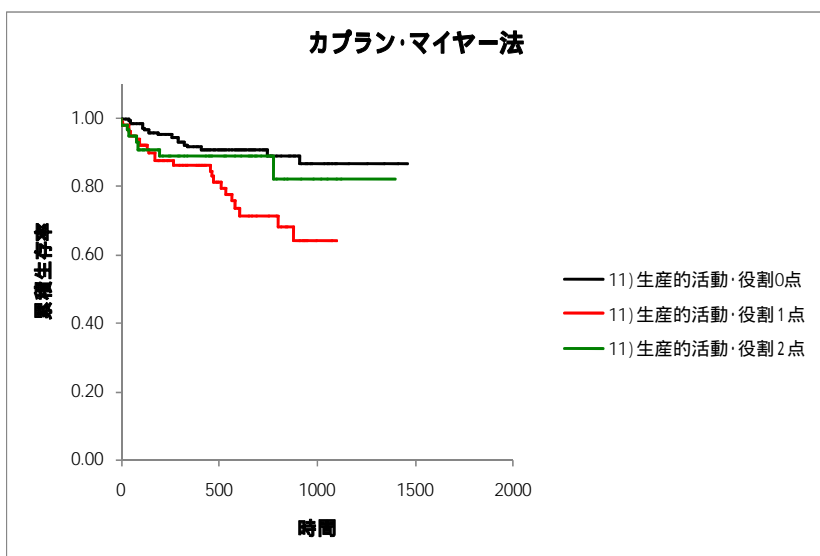


図 29 【11）生産的活動・役割】の生存率曲線（0点、1点、2点の3群）

表 38 【11）生産的活動・役割】生存率曲線の差の検定（0点、1点、2点の3群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	10.373	2	0.006
一般化Wilcoxon検定	10.060	2	0.007

表 39 【11）生産的活動・役割】生存率曲線の差の検定（0点、1点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	10.403	1	0.001
一般化Wilcoxon検定	10.162	1	0.001

表 40 【11）生産的活動・役割】生存率曲線の差の検定（1点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	1.915	1	0.166
一般化Wilcoxon検定	1.627	1	0.202

表 41 【11）生産的活動・役割】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	0.872	1	0.350
一般化Wilcoxon検定	0.991	1	0.320

表 42 【衝動コントロール】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁷

衝動コントロールの小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 一貫性のない行動	1.012	0.225	20.311	1	0.000	2.752	1.772	4.273
2) 待つことができない	0.730	0.234	9.713	1	0.002	2.076	1.311	3.285
3) 先の予測をしない	0.830	0.203	16.773	1	0.000	2.294	1.542	3.414
4) そそのかされる	0.618	0.273	5.143	1	0.023	1.855	1.088	3.165
5) 怒りの感情の行動化	0.616	0.233	6.963	1	0.008	1.851	1.172	2.924

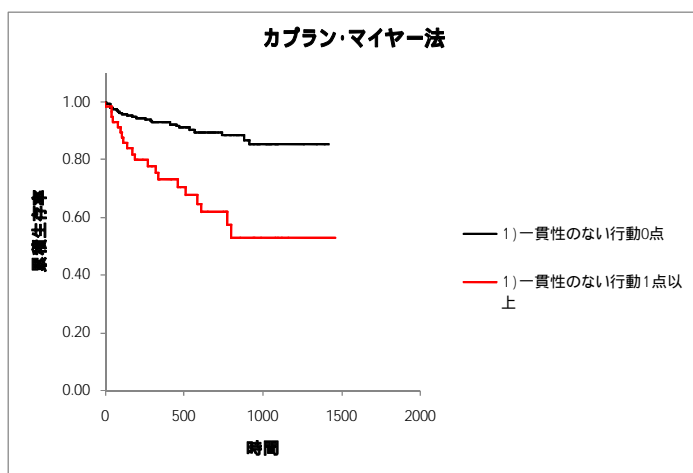


図 30 【1) 一貫性のない行動】の生存率曲線 (0点と1点以上との比較)

表 43 【1) 一貫性のない行動】生存率曲線の差の検定 (0点と1点以上との比較)

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	25.020	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	24.546	1	0.000

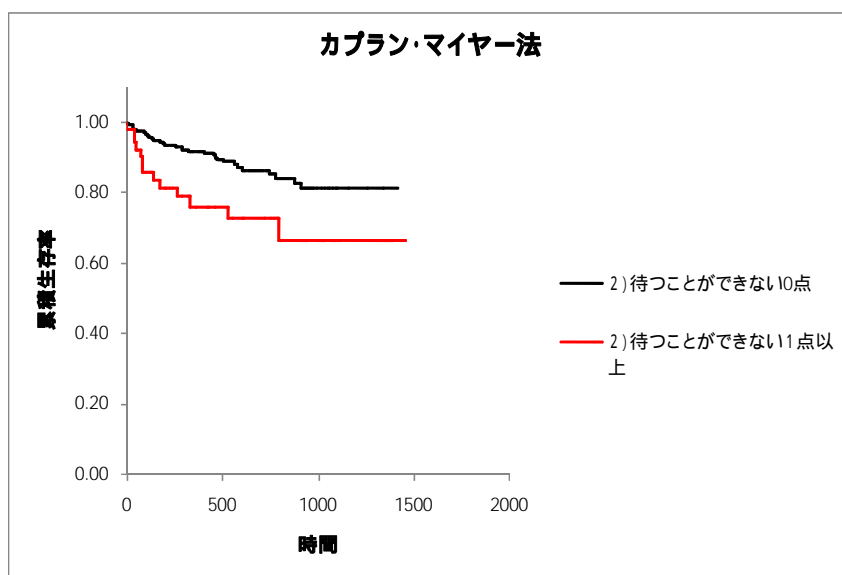


図 31 【2) 待つことができない】の生存率曲線 (0点と1点以上との比較)

⁷ 本表の値は、5項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

表 44 【 2 ）待つことができない】生存率曲線の差の検定（ 0 点と 1 点以上との比較）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	7.410	1	0.006
一般化Wilcoxon検定	7.906	1	0.005

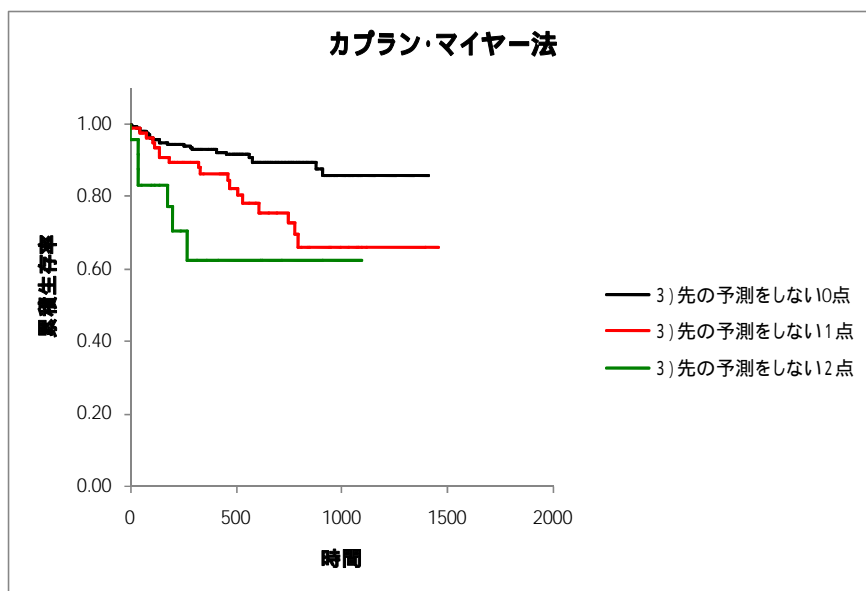


図 32 【 3 ）先の予測をしない】の生存率曲線

表 45 【 3 ）先の予測をしない】生存率曲線の差の検定（ 0 点、 1 点、 2 点の 3 群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	18.819	2	0.000
一般化Wilcoxon検定	19.046	2	0.000

表 46 【 3 ）先の予測をしない】生存率曲線の差の検定（ 0 点、 1 点の 2 群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	8.288	1	0.004
一般化Wilcoxon検定	7.847	1	0.005

表 47 【 3 ）先の予測をしない】生存率曲線の差の検定（ 1 点、 2 点の 2 群）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	3.119	1	0.077
一般化Wilcoxon検定	3.781	1	0.052

表 48 【3）先の予測をしない】生存率曲線の差の検定（0点、2点の2群）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	15.049	1	0.000
一般化Wilcoxon検定	15.475	1	0.000

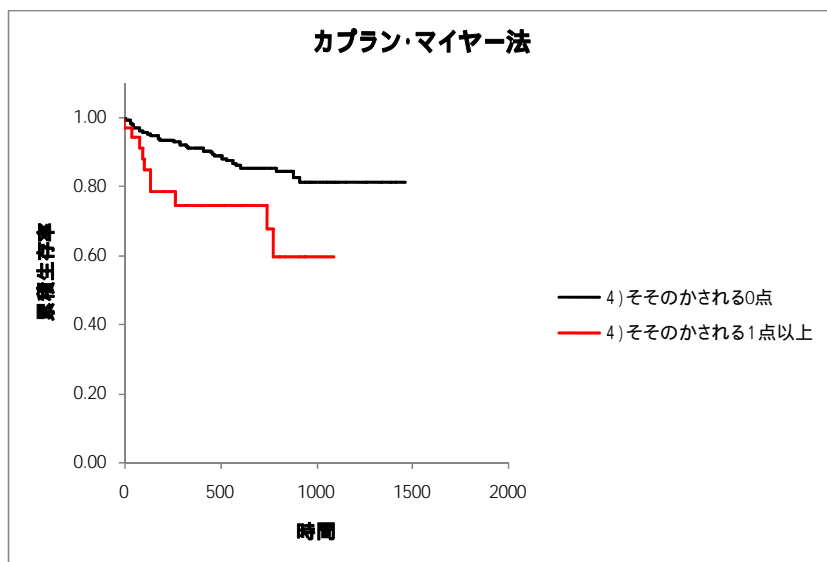


図 33 【4）そののかされる】の生存率曲線（0点と1点以上との比較）

表 49 【4）そののかされる】生存率曲線の差の検定（0点と1点以上との比較）

手法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	8.201	1	0.004
一般化Wilcoxon検定	8.410	1	0.004

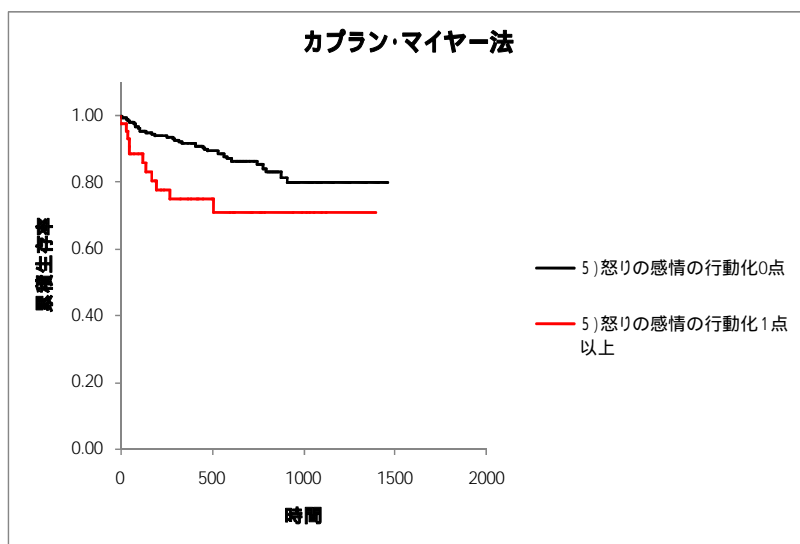


図 34 【5）怒りの感情の行動化】の生存率曲線（0点と1点以上との比較）

表 50 【5）怒りの感情の行動化】生存率曲線の差の検定（0点と1点以上との比較）

手 法	カイ二乗値	自由度	P 値
ログランク検定	6.117	1	0.013
一般化Wilcoxon検定	6.854	1	0.009

表 51 【非社会性】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁸

非社会性の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 侮辱的な言葉	-0.187	0.879	0.045	1	0.832	0.830	0.148	4.646
2) 社会的規範の蔑視	-0.217	0.639	0.115	1	0.735	0.805	0.230	2.816
3) 犯罪志向的態度	計算が収束しませんでした。							
4) 特定の人を害する	-0.467	0.954	0.239	1	0.625	0.627	0.097	4.067
5) 他者を脅す	0.956	0.400	5.717	1	0.017	2.600	1.188	5.691
6) だます、嘘を言う	0.385	0.476	0.654	1	0.419	1.469	0.578	3.734
7) 故意の器物破損	1.457	0.470	9.591	1	0.002	4.291	1.707	10.786
8) 犯罪的交友関係	-0.140	0.866	0.026	1	0.871	0.869	0.159	4.744
9) 性的逸脱行動	1.619	0.591	7.498	1	0.006	5.047	1.584	16.078
10) 放火の兆し	0.415	0.757	0.300	1	0.584	1.514	0.343	6.675

表 52 【現実的計画】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量⁹

現実的計画の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 退院後の治療プランへの同意	0.194	0.205	0.894	1	0.344	1.214	0.812	1.816
2) 日中活動	0.265	0.194	1.869	1	0.172	1.303	0.892	1.905
3) 住居	0.003	0.215	0.000	1	0.987	1.003	0.659	1.528
4) 生活費	-0.441	0.295	2.233	1	0.135	0.644	0.361	1.147
5) 緊急時の対応	-0.026	0.197	0.018	1	0.893	0.974	0.662	1.432
6) 関係機関との連携・協力体制	-0.066	0.204	0.105	1	0.745	0.936	0.628	1.396
7) キーパーソン	0.037	0.219	0.029	1	0.866	1.038	0.676	1.593
8) 地域への受け入れ体制	-0.099	0.207	0.229	1	0.632	0.906	0.603	1.359

表 53 【治療・ケアの継続性】の小項目それぞれの COX 比例ハザードモデルの統計量¹⁰

治療・ケアの継続性の小項目	Wald検定					ハザード比 Exp(係数)	95%信頼区間	
	係数	標準誤差	カイ二乗値	自由度	P 値		下限	上限
1) 治療同盟	0.343	0.276	1.542	1	0.214	1.409	0.820	2.420
2) 予防	-0.255	0.221	1.330	1	0.249	0.775	0.502	1.195
3) モニター	-0.163	0.205	0.634	1	0.426	0.850	0.569	1.269
4) セルフモニタリング	0.179	0.204	0.777	1	0.378	1.197	0.803	1.783
5) 緊急時の対応	-0.205	0.209	0.968	1	0.325	0.814	0.541	1.226

⁸ 本表の値は、10項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

⁹ 本表の値は、8項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。

¹⁰ 本表の値は、5項目を COX 比例ハザードモデルによって解析したものではなく、1項目ずつ COX 比例ハザードモデルで解析したものを1つの表にまとめたものである。